



一般社団法人 日本建築学会

東北支部年報

第 33 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

巻頭言

「あたりまえの日常」を求めて

東北支部長 若井 正一

千年に一度といわれる「東日本大震災」から2年が経ちましたが、東北各地の被災地では、いまだに数多くの被災者が仮設住宅で暮らし、厩大な瓦礫も残っています。被災地の震災復興は、相変わらず先が見えない現状です。

特に、福島第一原発事故による放射能汚染の被害は、自然災害とは異なり、その収束に数十年単位で取り組まなければならない人災です。資源に乏しい日本が、夢のエネルギーとして科学技術の粋を結集した原発でしたが、一度点火した核燃料は、簡単に消却することが難しく、自然に還すまでに1万年以上もかかると聞くと、人間の生命のはかなさを感じて、気が遠くなる思いがします。

ところで、あなたは、あの2年前の大震災が発生した時<2011年3月11日午後2時46分>に、どこで、何をしていましたか。あの時は、金曜日の午後でしたので、多くの人々が職場で仕事、そして子供たちは学校から下校する時間帯でした。私は、いつものように研究室で机に向かっていました。たまたまつけていたテレビから緊急地震速報が流れ、間もなく、これまで経験したことのない激しい揺れが襲ってきました。数分間続いた揺れで、周りの本棚やロッカー類が次々に転倒して、危うく

難を逃れました。その揺れが少し収まって、まず私の頭を過ったのは、家族の安否と震源がどこなのか、ということでした。しかし、電話は繋がらず、その後も大きな余震が続いて、長く不安な時間を過ごしました。さらに、各地では、電気、ガス、水道などが止まって多くの人々が避難所で暮らす生活を余儀なくされました。その中で、原発事故で全国各地に避難した多くの人たちは、いまだに自宅へ戻るができないまま不自由な暮らしを強いられています。いま、彼らが求めていることは、以前の「あたりまえの日常」を取り戻すことなのです。

あの恐ろしい光景の巨大津波、そして福島第一原発の爆発事故は、まさに日本全土を震撼させる出来事でした。

2万人余が犠牲となった東日本大震災の経験を風化させることなく後世に語り継いでいくことは、残された私たちの使命ではないでしょうか。その中で、多くの本会会員が、東北の被災地において様々な支援活動やまちづくりなどに取り組んでいることを心強く感じております。

今後、二度と同じような災害が起きないことを念願し、ここに、東日本大震災で犠牲となられた方々のご冥福をお祈りして、心から哀悼の意を捧げます。

もくじ

○巻頭言	1
○企画記事	2
○第33回東北建築賞(作品賞)選考報告	3
○第33回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告	6
○第23回東北建築作品発表会報告	6
○第32回東北建築賞表彰式及び展示会報告	6
○作品選集2013 東北支部選考経過報告	7
○2012年度設計競技東北支部審査報告	7

○2012年度東北支部研究報告会報告	8
○2012年度日本建築学会東北支部総会報告	8
○研究部会活動報告	8
○支所だより	12
○常議員会から	14
○支部役員名簿	15
○2012年度事業報告	16
○2013年度事業計画(案)	18
○法人・賛助会員名簿	20

「みちのくの風 2012 青森」開催報告

常議員（総務企画） 安部 信行

「みちのくの風 2012 青森」は 2012 年 6 月 16 日（土）、17 日（日）に青森県八戸市の八戸工業大学を会場として開催された。内容は、第 75 回東北支部研究報告会、招待講演（構造系、計画系）、パネルディスカッション、第 32 回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会と両日を通してパネル展示会である。更に、JIA 青森東北支部作品展示及び法人会員技術報告建築作品展示会も同時に行われた。それらの概要を以下に記す。

第 75 回東北支部研究報告会は、発表題数 109 題、発表会参加者数は延べ 161 名であった。招待講演は、6 月 16 日（土）に構造系の講演及び支部訪問として、本学会長の和田章氏（東京工業大学名誉教授）より「大きな自然と厳しい自然災害、そして我々にできる 4 つの対策」と題して東日本大震災を踏まえての講演が行われ、85 名の参加が得られた。同日夕方には第 32 回東北建築賞表彰式とそれぞれの受賞者による記念講演が八戸市中心部の八戸グランドホテルに会場を移して行われた。表彰式及び記念講演には約 70 名の参加があった。また、これに伴う懇親会も同会場にて盛大に開催され、59 名の参加があり親交を深めることができた。尚、建築賞の受賞作品については、八戸工業大学内で開催期間中に展示され、2 日間で延べ 150 名の方に閲覧いただいた。6 月 17 日（日）の午前中には、計画系の招待講演が「前夜の東北から考える震災後のパースペクティブ」と題して実施された。講演者は青井哲人氏（本会理事、会誌編集委員長、明治大学准教授）、芳賀沼整氏（建築家 はりゅうウッドスタジオ）の両氏であった。これに引き続き、青井氏、芳賀沼氏に加えて鈴木孝男氏（宮城大学）をパネリストとしてパネルディスカッションが行われた。コーディネートは坂口大洋氏（仙台高専）大沼正寛氏（東北工業大学）であった。この講演及びパネルディスカッションには約 50 名の参加者があり、活発な議論が行われた。

「みちのくの風 2012 青森」の開催にあたりご尽力いただいた、会場の八戸工業大学の関係各位、及び青森支所の各位に謝意を表し報告を締めくくる。

2012 年度特色ある支部活動採択事業 東北地域の復興課題を抽出する計画系共同研究会：震災まで、震災後

研究責任者 坂口 大洋

本年度日本建築学会本部より特色ある支部事業として採択された「東北地域の復興課題を抽出する計画系共同研究会：震災まで、震災後」事業は、東北支部の建築計画、地方計画、デザイン教育の 3 部会が企画実施主体となり、発災後 2 年を迎える震災復興のプロセスにおける複雑化する課題を横断的な議論から捉え、今後の道筋への手掛かりを持つことを目的とし、3 回の公開研究会の企画実施と関連資料の整理を行った。第一回は 2012 年 11 月 18 日に新井信幸（東北工業大学）、増田聡（東北大学）のコーディネートで、「復興のその先にあるハウジング」と題してあすと長町仮設住宅コミュニティ構築を考える会との共催で約 30 名の参加者で行われた。延藤安弘（愛知産業大学）によるシェアのある暮らしに関する基調講演、興梠信子（武蔵野緑町パークタウン）、藤岡泰寛（横浜国立大学）田口雄一（NPO 法人ぱれっと）による様々な暮らしに関する事例報告を受けとディスカッションを行った。コメンテーターに増田、飯塚正広（あすと長町仮設住宅コミュニティ構築を考える会）によって行われ共生する暮らしの重要性が確認された。

第二回は、2013 年 1 月 26 日に大沼正寛（東北工業大学）と鈴木孝男（宮城大学）のコーディネートで「地縁・浜縁 ―集落再興の道しるべ―」と題して約 20 名の参加者により行われた。環境社会学が専門の 宮内泰介（北海道大学）から集落生活のゆくえと新たな共助のしくみを、水産行政が専門の小松正之（政策研究大学院大学）から漁村生業のゆくえと新たな産業のしくみについて報告を頂いた後、フリーライターの小山厚子（小山編集室・地域活性化伝道師）をコメンテーターとして招き、資源の利用が持続可能になるための保全と再建計画が重要であるとの示唆を得ることができた。

第三回は、2013 年 3 月 5 日に「計画の震災」としての東日本大震災の次なるステージに向けて」と題して坂口と石井敏（東北工業大学）のコーディネートで、東北大学震災復興研究センターとの共催により約 30 名の参加者で行われた。牧紀男（京都大学）から 3 年目に向けた災害復興のスキームとプロセスの重要性を、三浦研（大阪市立大学）から阪神・淡路大震災の経験を踏まえて高齢者居住の継続性を視点とした災害公営住宅のあり方を、岩佐明彦（新潟大学）から中山間地域の再生を視点とした 2004 年中越地震の復興プロセスと課題を芳賀沼整（はりゅうウッドスタジオ）からはフクシマの今とこれからの課題の報告を受け、その後パネルディスカッションを通じて、成熟型の復興プロセスという今日の視座を見出し増田がまとめを行った。

全体を通じて、ユーズ 制度 時間 コストなどの様々な件を整理する

プロセスの自体的問題をより複雑化させている側面が大きいことを痛感し、成熟した社会における復興プロセスの在り方を共有することがそれを解く第一歩であることを改めて確認した。

災害委員会活動報告

委員長 田中 礼治

2011年3月11日の東日本大震災から2年が過ぎた。月日の流れは早い。しかし、未だ復旧・復興が終了していない地域も多いと聞く。早い復旧・復興をお祈り申し上げる。

東日本大震災後、日本建築学会東北支部では直ちに災害調査委員会を立ち上げ、調査を行った。その結果については日本建築学会「2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報」(2011年7月出版)の中に詳細に報告されている。その後、東北支部では2011年3月22日の宮城県建築物等地震対策推進協議会(会長 田中礼治 東北工業大学名誉教授)と共催で「東北地方太平洋沖地震による建築被害報告会」を開催し、速報の調査の成果について報告した。また、2013年3月15日にも上記協議会と共催し part 2 の報告会を行った。災害委員会では、現在3月末を目標に「日本建築学会東北支部2011年東日本大震災災害調査報告」を編集中である。この報告書は、日本建築学会東北支部災害調査委員会が東北地方の会員を中心として、ほぼ2年間で得た被害調査結果並びに分析結果などを集積した報告書である。本報告書の特徴は、日本建築学会東北支部災害調査委員会の委員をはじめ、東北地方の会員の皆さんの中で今回のこの大震災について学術的に記録として残しておきたいものを応募してもらい、できるだけ多くの方々からの情報を入れるよう心がけたことと、被害以外の事項、即ち地震後の2年間で行われてきた復旧・復興についても記録として留めておくことにしたことである。

日本は地震の多発期に入ったと言われており、東海、東南海、南海などの大きな地震の発生が予測されている。また、東京直下型の地震も心配である。このような地域に地震が発生した場合、東日本大震災と同様の被害が生じるようでは、東日本大震災の教訓が生かされていないことになる。そのようなことがないように報告書を活用していただければ幸いである。

第33回東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 小山 祐司

1、応募作品

- ・小規模建築物部門 10点
- ・一般建築物部門 12点
- 計 22点

2、選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2012年9月19日(水)

13:30 ~ 15:00

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会 2012年10月6日(土)

10:00 ~ 15:30

於 せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

第23回東北建築作品発表会において応募22作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第1次審査会 2012年10月6日(土)

15:45 ~ 17:00

於 せんだいメディアテーク2階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。①企画力、②技術力、③地域への貢献・文化度、の選考基準を前提とし、2次審査対象作品として、約半数の10~12作品を選定するため、発表された作品について部門に関わらず1人8点ずつ投票を行った。その結果から、4票以上獲得した12作品を通過作品とし、3票を獲得した作品について議論し通過作品に加えた。得票数が2票、1票、0票の作品を落選とした。

以上の結果、小規模建築物部門6点、一般建築物部門7点の合計13点を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された13作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を審査委員分担で作成し、審査委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月初旬から2次審査会(2013年1月27日)までの期間中で選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2013年1月27日(日)

13:00 ~ 16:30

於 日本建築学会東北支部会議室

最初に第2次審査に進んだ13作品のうち1作品が諸事情により現地審査を辞退した旨が事務局より報告された。この作品を除いた12作品を第2次審査対象としたことが確認された。小規模部門作品について、一作品ずつ、現地審査担当者から写真スライド等により報告を受けた後、作品についての質疑や審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行

い、1人2作品を投票した。8票と9票を獲得した2作品を全会一致で作品賞として選定した。引き続き、一般部門について同様に報告、討議を行い、1人4作品以内を投票した。その結果、8票以上獲得した4作品を作品賞として全会一致で選定した。小規模部門で3票を獲得した作品について特別賞として相応しいかどうか慎重に審議を行い検討したが、特別賞には至らないという結論になった。

以上の審議により、小規模部門については作品賞2点、一般部門については作品賞4点が入賞作品と決定した。

(6) 選考結果

作品賞 6点

HOUSE - M

【所在地】山形県山形市

【設計監理】東北芸術工科大学 竹内昌義・馬場正尊・亀岡真彦・中村聡志

【施主】三浦秀一

【施工】三浦建築・ソーラーワールド・ぜいたく屋・下山製材・庄司製材所

冬日の家 (ふゆびのいえ)

【所在地】青森県弘前市

【設計監理】蟻塚学建築設計事務所 蟻塚学

【施工】(有)長谷川工務店

由利本荘市文化交流館 カダール

【所在地】秋田県由利本荘市東町15

【設計監理】総括・建築：新居千秋都市建築設計

構造：ARUP

設備：森村設計

劇場コンサルティング：シアターワークショップ

音響コンサルティング：永田音響設計

【施主】由利本荘市

【施工】建築本体：戸田建設

西外構：村岡建設工業

東外構：長田建設

八戸ポータルミュージアム はっち

【所在地】青森県八戸市三日町11-1

【設計監理】建築：針生承一建築研究所・アトリエノルド・アトリエタック設計共同体

構造：星野建築構造設計事務所

設備：総合設備計画東北事務所

【施主】八戸市

【施工】建築：寺下・大館・高橋・小幡特定建設工事共同企業体

給排水衛生：テクノ・三久特定建設工事共同企業体

空調：坂本建設工業・八戸設備・葵工業特定建設工事共同企業体

強電：興陽・京谷・河原木特定建設工事共同企業体

弱電：和井田・創電特定建設工事共同企業体

展示：丹青社

東北大学 片平キャンパスA I MR本館

【所在地】宮城県仙台市青葉区片平2-1-1

【設計監理】建築：東北大学キャンパス計画室+施設部、三菱地所設計

構造：三菱地所設計

設備：総合設備計画

【施主】国立大学法人 東北大学

【施工】建築：戸田建設東北支店

空調・衛生：三建設備工業東北支店

電気：東光電気工事東北支社

白河市立図書館

【所在地】福島県白河市道場小路96-5

【設計監理】建築：第一工房

構造：ARUP

設備：環境エンジニアリング

照明コンサルティング：ARUP

外構：カネミツヒロシセックエイシツ

サイン：氏デザイン

【監理】ふくしま市町村建設支援機構

【施主】白河市

【施工】建築：県南・三金特定建設工事共同企業体

空調・衛生：山田・白河特定建設工事共同企業体

電気：車田・白河特定建設工事共同企業体

外構：福島県南土工業

(7) 講評

【HOUSE-M】

本住宅は実用的なエコハウスを志向した木造住宅で、山形市の中央部に位置し、畑等の空き地が散見される閑静な環境に囲まれています。山形県産の杉の横板張りの外装は、築後1年余りということもあり表面の色合いのばらつきはあるものの、周囲に溶け込んだものでした。外壁、屋根および基礎部分の断熱や開口部の仕様は、よく工夫され、実用住宅として考える最高の仕様となっています。このような高断熱仕様による室内環境は、アクティブな手法では得られないマイルドな快適性を提供するもので、住まい手の立場に立った空間構成と共に、住んでみたいと思わせる住宅となっています。太陽熱利用温水器、太陽光発電、薪ストーブなど無理のない範囲で再生可能エネルギーが利用されていることも評価したいと思います。

実用住宅ではありますが、今後、エネルギー消費量や室内環境などについて、計測、公表されることを期待したいと思います。

います。

【冬日の家（ふゆびのいえ）】

この住宅は、地方都市の伝建地区の位置する住宅です。寒冷地では積雪などの理由から一般的に閉鎖的な住宅になりやすい中で、東西方向に3つの層を設定し、木製の可動間仕切りとサッシにより季節的にフレキシビリティの高い生活空間が提案されています。特に南側に面する「使う庭」に接するサンルームとリビングは一体的な空間として計画され、冬季においても高度の低い日照を取り込んだ開放的な生活を可能にしています。また、ウォークインクローゼットを介してつながるリビングと子ども部屋の機能性と回遊性、通り土間を介した客間では、庭に対して開口部を絞り視覚的なつながりと連続性を実現しています。また、無落雪を前提とした陸屋根と水平に広がる軒裏のデザイン。東北地方では珍しい焼き杉による外壁を用い、近隣の伝建地区の街並みとも関係を構築し調和を生み出しています。

多雪地域における単なる質の高い住宅の提案を越えて、通常、制約条件になりやすい雪と冬季の日照を巧みに取り込み、冬の日常的に開放的な風景を新たに生み出す設計者の手腕は、審査会においても高く評価されるとともに今後の活躍が大いに期待されます。

【由利本荘市文化交流館 ガダール】

本計画は、地方都市に立地する劇場、図書館、プラネタリウムを中心とした複合型公共施設として、設計者の経験と意欲的な試みが随所に具現化されています。

各施設の機能が高い水準にデザインされているだけでなく、敷地周辺に対して様々なアクティビティが展開可能な空間構成となっている。特に施設全体の空間の骨格であるわいわいストリートは、各階の活動がヴォイドを通じて伝わる構成となっており、日常的な賑わいが生み出されています。また、ホールゾーンは、地域のイベントなどでは、客席可変システムにより、長さ約135mに及びダイナミックに周辺街区とつながる非日常的な祝祭空間として機能します。また、設計プロセスにおいては、設計者がこれまで手掛けてきた参加型プロセスの設計手法を積極的に活用し、地域の文化活動団体の利用を促し開館後の高い利用率につなげていることも評価の対象となりました。これらを含め、衰退化が進展する地方都市の中心部に新たな息吹を持ち込む設計者の意図が高いレベルで成功しています。

以上の理由から、地域における新たな公共文化施設の解として審査においても高く評価され、東北建築賞に推挙する水準に到達しています。

【八戸ポータルミュージアム】

古くから城下町として栄えた八戸は他の地方都市同様、空き店舗が目立ち衰退しかかっています。その中心市街地に、市が八戸の観光や文化を見直し、その魅力を紹介する施設の提案を全国に求めました。完成した建築は祭りの極彩色な山車に見られるようにカラフルな色彩を好む地域性が商店街を

も染めている中であって、コンクリート打放しとガラスでつくられ、街の黒子に徹しているように見えます。しかし、外壁に組み込まれた自動給水システムを持った壁面緑化によって、春夏秋はこの建築が通りに自然の彩をまとうことも写真で確認できました。内部は中庭を中心に、エスカレータを使って全館を自由に体験できるシンプルな構成です。街に向かって開かれた1階のハッチ広場に市民が集い、八戸に残る横丁の雰囲気も内部にもにぎやかに展開しており、観光客と市民どうしの交流、創造の拠点をつくるという目的が、市側の積極的な場の作り込みによって高いレベルで成功している印象を持ちました。建築家が八戸市や市民とワークショップを重ねながら、必要とされる役割をきっちりと果たし街の活性化に大きく寄与しています。

【東北大学 片平キャンパスA IMR本館】

本建築は、東北大学片平キャンパスの事実上の表玄関といえる北門のゲートの機能を有するものです。その建替えにあたっては、街並みを構成する歴史的な外壁を残しつつ、内部は完全に新しくするという方式が採られました。

建物本体は、オフィス棟とラボ棟から構成されていて、その二つの棟がガラス屋根の架けられたアトリウムによって接続されています。このアトリウム空間は、二棟の廊下を互いに向かい合わせにし、また二階以上を一部階段状にセットバックさせています。それにより、自然光がガラス屋根から全体に差し込む明るい空間になっており、また人の動きが水平方向にも垂直方向にも感じられる一体性活動性ある空間にもなっています。また、中庭に面している南側については壁面緑化がなされ、夏季は緑のカーテンによる日射遮蔽が意図されているなど、環境にも配慮したデザインとなっています。

このように、本建築は歴史性と機能性がうまく調和したものに仕上がっており、東北建築賞にふさわしいものと認められます。

【白河市立図書館】

JR 白河駅近く、東北本線と市内の主要道路に挟まれた平坦な敷地に建つ、100m近い幅の勾配屋根をもつ建物で、図書館としての機能のほか、多目的ホールや会議室などの市民活動・交流の場を有する施設です。建物内部は、特徴である大屋根を張弦梁とすることで、曲面天井を有する開放感のある空間となっており、多くの人々が快適に利用できる場となっています。人口6万人余りの白河市の中で、1日の利用者は平均1,000人を超え、開館して間もないにもかかわらず、すでに街の新しいランドマークになっています。また、建物の前庭は、誰もが気軽に散策できる並木道となっており、図書館を利用する人以外にも、多くの人々をこの場所に引き寄せることを意識した設計となっています。

調査時も建物周辺の賑わいが感じられました。この建物を中心に新しい街並みが形成されつつあり、地域の活性化に貢献できているとして高く評価できます。

第33回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長 ・小山祐司 東北工業大学ライフデザイン学部
安全安心生活デザイン学科

委員 ・船木尚己 東北工業大学建築学科
・最知正芳 東北工業大学建築学科
・菊田貴恒 東北大学大学院工学研究科
都市・建築学専攻

・坂口大洋 仙台高等専門学校建築デザイン学科
・三宅 諭 岩手大学農学部共生環境課程
・竹林芳久 東北学院大学工学部環境建設工学科
・須田眞史 宮城学院女子大学学芸学部
生活文化デザイン学科

・阿部直人 (有) 阿部直人建築研究所
・田畑光三 (株) 田畑建築設計事務所
・姥浦道生 東北大学大学院工学研究科
都市・建築学専攻

第33回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告

選考委員長 三辻 和弥

審査対象論文「転動柱基礎免震システムの基本設計法の提案」は地震被害の多い開発途上国においても採用可能な、安価で有効な免震構造システムの提案を目的としており、振動台実験や数値解析による検証を通してシステムの有効性を検討し、基本的な設計法を提案したプロセスが高く評価された。

近年、世界的に被害地震が多発しており、特にアジアや中南米地域では、地震のエネルギーを表すマグニチュードは比較的小さいにも関わらず、震源深さが数km~10km程度の地震によって組積造建物が大破・倒壊するなどして大きな被害を招いている例が複数見られる。審査対象論文が提案する転動柱基礎免震システムはこのような状況に対して開発途上国の一般的な住宅の地震被害低減・耐震性向上といった側面から一石を投じるものである。

著者らはこれまでの一連の研究において、「転動柱基礎免震システム」の開発に関する研究を行ってきた。ここでは、システムの基本的な振動特性やねじれ振動に対するシステムの応答特性、エネルギーの釣り合いに基づく応答予測法の提案など、多くの成果が収められてきた。これらの成果を基に、審査対象論文では、エネルギー法を用いた「転動柱基礎免震システム」の基本設計法を構築し、設計例を挙げてその有効性を議論している。

免震層には、免震装置としての転動柱とエネルギー吸収部材としての鋼材ダンパーが用いられ、それぞれの基本設計フローチャートが提案されている。設計の流れとしては、免震層の固有周期とダンパーの降伏せん断力係数の目標値を算出することで免震層の基本設計を行い、その結果に沿って、免震層の固有周期を決定する転動柱の個数や配置、ダンパーの設定などが決定される流れとなっている。最終的には設計目標値として、免震層の最大応答変位や最大応答加速度が提示

される。設計例の建物モデルによる地震応答解析の結果は、概ね設計目標値に収まっており、著者らの提案する設計手法の妥当性が示されている。今後、さらに実用化に向けての解決すべき問題は残されているものの、地震多発地帯の開発途上国において有効な免震構造の提案として、大いに発展の期待できる論文となっている。

審査対象論文について、出席した選考委員及び欠席の選考委員からの委任状による事前の審査結果は満場一致による「合」であり、選考委員会においても異議は出なかったため、当該論文への褒賞を決定した。

研究題目：転動柱基礎免震システムの基本設計法の提案

受賞者：藤田 智己(仙台高等専門学校)

第23回東北建築作品発表会報告

常議員(社会文化) 姥浦 道生

平成24年10月6日(土)に、せんだいメディアテーク7Fスタジオシアターにて第23回東北建築作品発表会が開催された。本発表会は、東北建築賞作品賞応募者に作品についてプレゼンして頂くものであり、作品賞の1次審査を兼ねると共に、学会と地域社会との交流の推進、建築関係者の研鑽、ならびに東北地方の地域特性に立脚した建築作品の探求を目的としている。本年度は小規模建築物部門10作品、一般建築部門12作品の計22作品と、震災の影響もあるかと思われるが例年に比べやや応募作品が少なかった。発表会においては、まず若井正一支部長より挨拶があり、その後、小山祐司選考委員長により発表にあたっての注意事項が説明された。その後の発表では、1作品につき8分の短い持ち時間であったものの、設計者から作品のコンセプトやアピールポイントについて充実したプレゼンテーションが行われた。質疑応答も2分という短い時間ではあったものの、活発な議論がなされ、活気のある発表会となった。比較的参加者も多かったが、来年度においては、さらに関係団体、大学などを通じた積極的な案内を行い、より活気のある発表の場にするよう努めていきたい。

第32回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員(社会文化) 姥浦 道生

第32回東北建築賞に関して、6月17日(土)~18日(日)に開催された「みちのくの風2012青森」の一環として、表彰式および作品展示会が開催された。

東北建築賞の表彰式は、1日目午後の日本建築学会会長の講演会に引き続き、会場を八戸グランドホテルに代えて執り行われた。東北建築賞作品賞の受賞は、作品賞7点、特別賞2点の合計9点であった。表彰に先立ち、小山祐司作品賞選考委員長より選考経過報告と講評が行われ、続いて支部長より各

受賞者に賞状、賞杯が贈呈された。また、東北建築賞研究奨励賞部門は1作品の受賞があり、浅里和茂研究奨励賞選考委員長より選考経過の後、支部長より賞状が贈呈された。表彰後、受賞者からお礼の挨拶と受賞作品の紹介が行われ、またその後の懇親会では、受賞者を交えて交流が図られた。

展示会は東北建築賞受賞作品およびAIJ東北法人会員、JIA青森の作品パネルが、2日間にわたって八戸工業大学教養棟1Fに展示された。その後、東北建築賞作品展示会として東北5県の支所などで巡回展示された。

本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品応募者の方々、八戸工業大学及び支部の関係者・スタッフ、委員長はじめ選考委員、JIA東北支部の方々の準備と協力により開催することができたものであり、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

作品選集 2013 東北支部選考経過報告

東北支部選考部会長 荻谷 哲朗

本年度の応募作品は昨年度と同じ12作品であった。その中には震災復興応急仮設住宅のものも2作品あり、復興の息吹も感じられたが、他の応募作品との比較から、応急仮設住宅については、東北支部等が必要とされる場合には、別途企画にて取り上げてもらうことにした。7月11日、その応募12作品から現地審査対象作品を投票により絞り込んだ。福島3、山形1、宮城3、の7作品が選出された。7月27日に福島、8月1日に山形、8月23日に宮城の作品について現地調査が行われた。8月23日に支部最終審査が行われ、その結果、本部推薦作品として、6作品が選ばれた。Aランク4作品、Bランク2作品と昨年と同数の作品が選定された。最終的には、本部選考でAランクは支部応募数の15%程度の規定から5作品の採択となったが、作品としてはバラエティーに富む選考結果となり、ほぼ、支部選考と同数の支持をうけたことは、震災にもかかわらず健闘したと言えよう。

《委員》

部会長 荻谷哲朗 (秋田県立大学)

委員 手島浩之 (都市設計集団/UAPP)

川島芳正 (川島隆太郎建築事務所)

大沼正寛 (東北工業大学)

柴崎恭介 (会津大学短期大学部)

三浦 哲 (三浦設計)

二宮正一 (二宮設計事務所)

2012年度日本建築学会設計競技

東北支部審査報告

審査委員長 佐藤 慎也

審査日：平成24年7月19日(木)

会場：日本建築学会東北支部会議室

審査員：五十嵐太郎(東北大学)、新井信幸(東北工業大学)、
佐藤慎也(山形大学) 大沼正寛(東北工業大学)、
恒松良純(秋田高専)

応募総数：14点

審査方法：委員の互選により審査委員長として佐藤委員、議事録作成者として新井委員が選出された。

14作品中上位4作品を支部入選とすることを確認の上、全応募作品を審査し、1審査員につき持ち点4票で投票を行いさらなる議論を経て上位4作品を支部入選とした。

311の惨状を目の当たりにして内省を迫られた私たち。どれだけ深く悩み、しかし再び形にしていくか。この重い課題に応募頂いた諸氏に、まずは敬意を表したいと思います。その上で、14作品を敢えて相対的に評価した結果、大きく4群に分かれました。Ⅰ：4つの入選作品、Ⅱ：次点となった3作品、Ⅲ：力作と認められた2作品、その他5作品です。いずれも僅差でした。

Ⅲ群の「家具の住宅地」「育てる仮設のまち」は、表現の違いこそあれど、被災地へ向けた気持ちのこもる力作ですが、前者は災害危険区域等の現実問題の未検討、後者はスケール感に欠けた絵本的表現によって、リアリティを欠いた印象を与えた点が惜まれます。Ⅱ群では、「くじらのある風景」は、牡鹿町鮎川で被災船を包み込む捕鯨研究所を提案した発想力に対し、スケール感と施設プログラムの不足が、「地をなぞり、時をつむぐ」は、内陸農村のあたりまえの風景に巧みなタッチで取組んだ着眼点に対し、創出した空間の魅力に欠ける点が、「きおくのもり」は、面白みのある着眼点と表現力に対し、形態操作のやや安直な手法が、それぞれ入選に至らなかった要因です。

その点、入選した4作品は、着眼点や発想力、完成度等において、魅力を有していました。歴史遺産や特別名勝に寄り添う建築としての「水力を手繰る」「巡り道」、健全な日常を取り戻すために力強く復興を描く「空白の40年を取り戻す」、そしてナイーブに人の想いを紡ぎ続ける「人を想う“心の虹”」です。

いずれも、建築的解答として満点には至らないかもしれませんが、課題に正面から答えた力作であり、むしろ専門外の一般市民にも問いかけることができると感じました。

2012 年度東北支部研究報告会報告

常議員 (学術教育) Buntara S. Gan

2012 年度東北支部研究報告会は「みちのくの風 2012 青森」として、2012 年 6 月 6 日 (土)・17 日 (日) の両日、八戸市の八戸工業大学を会場に開催された。

発表論文題数は計画系 61 題、構造系 48 題、計 109 題であった。両日は 4 会場に分かれ、計画・環境・材料施工・防火・構造の各分野ごとに、活発な意見交換が行われた。初日午後から、和田章氏 (本会会長・東京工業大学名誉教授) による、構造系招待講演「大きな自然と厳しい自然災害、そして我々ができる 4 つの対策」が実施された。夕方からは会場を八戸グランドホテルに移し、第 32 回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会が開催された。2 日目午前には、「前夜の東北から考える震災後のパースペクティブ」をメインテーマとし、青井哲人氏 (本会理事/会誌編集委員長/明治大学准教授) と芳賀沼整氏 (建築家 はりゅうウッドスタジオ) による計画系基調講演+パネルディスカッションが実施された。また、両日には八戸工業大学の教養棟 1 階学生ホールにて、第 32 回東北建築賞受賞作品パネル展示、JIA 青森等作品展示並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会を開催された。いずれの企画も盛況のうちに無事終了することができ、関係者各位には深く感謝申し上げます。

2012 年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員 (総務企画) 西脇 智哉

日時：2012 年 5 月 12 日 (土) 15:30~16:05

場所：日本建築学会東北支部会議室

出席者：101 名 (委任状含む)

資料：日本建築学会東北支部年報第 32 号

2012 年度日本建築学会東北支部総会式次第

資料 1-1：2012 年 3 月 31 日現在 貸借対照表

資料 1-2：2011 年度 正味財産増減計算書

資料 1-3：2011 年度 収支計算書

資料 2：会計監査報告書

資料 3：2012 年度 収支予算書

西脇智哉常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数及び委任状の確認

出席者 27 名、委任状 74 通、合計 101 名の確認があり、東北支部会員 1,119 名の 1/30 (37 名) 以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長挨拶

田中礼治支部長による挨拶があり、今年度の総会通常通りに開催できたこと、各種事業も通常業務に戻りつつあることなどが報告された。

3. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、薛 松濤氏及び速水

清孝氏が選出された。

4. 議事

東北支部規程により、田中礼治支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

(1) 2011 年度事業及び会計に関する件

1) 2011 年度事業

堀則男常議員より、支部年報 17~18 ページの「2011 年度事業報告」に基づき、2011 年度事業内容が報告された。

2) 2011 年度収支決算

佐々木健二常議員より、資料 1-1「貸借対照表」、資料 1-2「正味財産増減計算書」、資料 1-3「収支計算書」に基づき、2011 年度収支決算が報告された。

3) 会計監査結果

渡邊裕生支部監事より、資料 2「会計監査報告書」の通り、2011 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。以上 2011 年度事業、収支決算及び会計監査結果に関する報告内容について審議した結果、特別な問題指摘もなく、これらの事項が承認された。

(2) 2012 年度事業及び会計に関する件

1) 2012 年度事業計画 (案)

西脇智哉常議員より、支部年報 19~20 ページの「2012 年度事業計画 (案)」に基づき、2012 年度事業計画案が説明された。

2) 2012 年度収支予算 (案)

佐々木健二常議員より、資料 3「収支予算書」が説明された。2011 年度事業計画 (案) 及び収支予算 (案)、災害調査委員会の予算について審議した結果、2012 年度の収入のうち、事業促進費収入が 100 万円の増額になっている点について質問があった。これは「特色ある支部活動」が採択され、本部から交付されたものであることが説明された。この他は特別な問題指摘もなく、原案通り承認された。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2012 年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

研究部会活動報告

(1) 歴史・意匠部会

部会長 永井 康雄

今年度の活動は、本部研究補助費による「東北地方の建築アーカイブスに関する研究」と東日本大震災による歴史的建造物の被害調査及び復旧に係る技術的支援を中心に活動した。前者については、国内で建築アーカイブの研究を精力的に進めている金沢工業大学から情報を提供いただき、更に学会で作成している「歴史的建築総目録データベース」の利用者にアンケート調査を実施し、記録する項目・内容を検討した。次に東北地方の大学及び設計事務所が有する建築資料の収集とデータ化に着手したが、震災による移転・仮住まいで資料

などが段ボールに梱包されたままの機関が多く、現地調査には至らなかった。後者については、昨年度に引き続き文化庁による文化財ドクター派遣事業が実施され、本部会も事業に全面的に協力した。事業の内容は、① 未調査被災文化財建造物の調査、② フォローアップ調査、③ 技術支援のための専門家派遣であった。①は昨年度調査できなかった地域を対象とし、岩手県で157棟、福島県で233棟の被災状況を把握した。②は昨年度調査した中から特に再調査が必要な物件に対して行い、岩手・宮城・山形・福島の各県で約30棟に対して実施した。③は建築家協会及び建築士会連合会から編成された専門家チームが具体的なアドバイスを実施するもので、本部会は学術的な立場から協力し、岩手・宮城・福島の各県で計11件に対して実施した。

こうした活動の最中、国の登録有形文化財に登録されている能代市議会議事堂が解体されるという情報が入り、学会東北支部と日本建築家協会東北支部が連携し、それぞれの支部長名で保存要望書を提出した。その結果、能代市から能代市議会議事堂を文化財として保存・活用する旨の回答があり、貴重な歴史的建造物を後世に伝えることができたことは大きな喜びであり、同時に能代市の英断に深謝する次第である。

最後になったが、本年度は菅原邦夫氏（山形工科短期大学）と長田城治氏（東北芸術工科大学）の御二方を新部会員として迎えることができた。

(2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

冒頭ですが、今年度から石井先生に変わり坂口が部会長を務めることになりました。今後とも何卒宜しくお願いいたします。

今年度の建築計画部会の活動は、部会単独の活動と別項にて詳述する建築学会本部により特色ある支部事業として採択された計画系3部会の合同企画である「東北地域の復興課題を抽出する計画系共同研究会：震災まで、震災後」の企画・実施を行いました。

部会単独の活動としては、2011年8月27日に秋田県由利本庄市文化交流館（カダール）（設計：新居千秋都市建築設計事務所）の公開見学会を、建築計画委員会文化施設小委員会との合同企画にて実施しました。当日は学生、研究者、実務者など20名近くが参加し、設計を担当した劇場コンサルタントの小林徹也（シアターワークショップ）の説明に加え可変型舞台機構のデモンも行われ、参加者一同地域の公共文化施設におけるフレキシビリティの重要性を認識したようでした。

また、東日本大震災の発生から2年目に入り部会の委員同士の情報共有を兼ねたミーティングを行うとともに、今後の被害報告書策定に備え昨年度集約した被害調査のデータ整理等を継続して行っております。更に部会の多くの委員が震災復興関連の本部の事業に関わっています。いくつか例を挙げますと、本部の復旧・復興における研究・提言部会WGには、

石井先生、巖先生、新井先生、坂口が参加し現場のニーズと課題をふまえた具体的な提言作成に関わり、浦部先生は建築雑誌2013年1月号「福島と建築学」の特集の企画段階から関わっています。また9月に行われた日本建築学会大会建築計画部門PDでは坂口が発災後の被災地における実践的な関わりを報告しております。

次年度以降は、東日本大震災発生から3年目を迎え新たなステージに移行します、これまで以上に横断的な情報共有を積み重ねながら、部会メンバーともども具体的な活動を展開していきたいと考えております。

(3) 地方計画部会

部会長 増田 聡

地方計画部会では、震災復旧・復興に直接・間接に関与している研究者や実務家、さらにその進展に関心を持つ支部学会員に対して、連携と情報交換の場を提供することを目的として、建築計画・建築デザイン教育の両部会と合同で「特色ある支部活動事業」を申請し採択された。本事業では、3部会の枠をこえて計画系研究領域で共有すべき視点から、下記3回の公開研究会（シンポジウム）を開催し、講師からの情報提供と討論の場を準備した。

1. 復興のその先にあるハウジング（2012年11月18日）

あすと長町仮設住宅の集会場において、復興住宅のあり方や都市型集住の可能性についての基調講演・事例報告を踏まえ、「シェアある暮らしの創造」をテーマに、新たな居住像とコミュニティ形成について議論した。建築計画・建築デザイン教育に属する新井信幸（東北工大）が主導し、地方計画部会から増田聡（東北大）がパネリストとして参加した。

2. 地縁・浜縁：集落再興の道しるべ（2013年1月26日）

三陸沿岸の漁村集落の再生をテーマとし、漁村コミュニティでの生業や資源管理のあり方を再考した。環境社会学の宮内北大教授、水産経済学の小松政策院大教授から話題提供をうけ、集落から三陸地域までの空間スケールにおける課題を議論した。建築デザイン教育・地方計画に属する大沼正寛（東北工大）、鈴木孝男（宮城大）が主となって企画運営した。

3. 計画の震災（2013年3月5日）

近代型計画論のとらえ直しとして「計画の震災」という視点から復興過程の諸課題を整理し議論を深めた。阪神や中越の被災・復興事例も踏まえ、人口問題と被災者心理、仮設住宅の環境整備、福島での仮設住宅・災害公営住宅の建設等の事例報告がなされ、慌てない計画策定と地道な復興作業の重要性が再確認された。建築計画の坂口大洋（仙台大）が中心となり、企画運営した。

上記の合同部会活動によって、復興計画論に多様な視点を盛り込むことが出来たと評価しているが、広く地方計画部会メンバー内で共有化されるには至っていない。都市計画学会東北支部、東北都市学会、都市計画家協会、まちづくりNPO（ふっこうカフェ等）との協働も進みつつある中で、今後

は更に、復興現場に関わる支部会員の情報交換と相互連携を強めていく必要がある。

(4) 構造部会

部会長 薛 松濤

2年前に発生した東北地方太平洋沖地震は、東北地方の住民としての構造部会の会員に甚大な人的・物的被害をもたらしました。しかし、1年間経った2012年から、部会員らが様々な困難を直面しながら立ち向かい、建物の構造被害調査だけではなく復興事業に力を入れて頑張ってきています。

沿岸部のRC構造物において、地震時にひび割れ生じその後の津波によって鉄筋が浸水されました。このような構造物の取り扱いが緊急課題となり、それを解決するため一度浸水された鉄筋の強度算定方法を開発し、部会員を中心にRC構造物の耐震診断法を提案しました。

体育館などの大空間構造物の剛床屋根とRC柱（壁）との接合部に、ボルトが311地震で破損した構造物が数多く存在しています。構造部会員を中心に診断手法を提案し、補強手法を開発しました。そして、近い将来に東南海大地震に備え、このような診断手法を全国に広げるため、建築研究開発コンソーシアムの研究会「鉄骨置き屋根構造の耐震に関する研究」を立ち上げ、2013年2月27日東京で第一回研究会を開催しました。東北大学名誉教授の柴田明德教授が委員長として就任しました。

宮城県建築物等地震対策推進協議会からの依頼で2013年3月15日に学会東北支部との共催で「第2回東北地方太平洋沖地震による建築被害報告会 - M9.0 巨大地震からの教訓 - 」というタイトルで県庁2階の講堂で開催しました。本構造部会の部会員を中心に講演を行いました。

構造部会と東北大学の共催で、「建築ラッシュ中の中国における構造・耐震設計の新たな方向性」（副タイトル：不確定問題を有する構造最適化：偶然変数及び不確定認識）のCASTフォーラム講演会が、平成25年2月28日（木）14時より東北大学工学研究科・総合研究棟1階110講義室において行われました。講演者は、中国同済大学の謝麗宇（XIE Liyu）博士でした。英語での講演でしたが質疑・討論は日本語、中国語、英語が入り混じり活発に行われました。

(5) 環境工学部会

部会長 菅原 正則

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を課題としながら、他分野との連携と地元のニーズへの配慮に留意しつつ部会活動を行っている。その主な内容は、部会開催時に上記に関連する研究者による勉強会の開催と、市民向けあるいは専門技術者向け

の研究会・見学会等の開催である。空気調和・衛生工学会東北支部をはじめ関連他団体との共催や、日本建築士会東北支部と相互に活動情報の交換を図っている。東日本大震災発生以降、震災関連住宅における健康影響の低減対策に関する研究WGおよび放射線環境WGを設置し、環境調査や改善策の提案に精力的に取り組んでいる。

今年度の部会活動を列挙すると下記の通りである。

1. 部会および勉強会の開催

①7/17 第1回部会および勉強会「鹿島のZEB事例：綿貫敏男氏」

2. 研究会などの開催

①7/6 シンポジウム「震災関連住宅における温熱・空気環境の実態と健康影響に対する低減対策」、参加者20名

②9/24 シンポジウム「東日本大震災による設備被害と耐震対策—建築設備被害調査からの教訓と提案—」、参加者72名

③11/8 講演会「省エネをデザインするパッシブハウス～地域性を活かした省エネ性能の考え方～」、参加者41名

(6) 材料部会

部会長 板垣 直行

2011年度は震災の発生により、その対応が活動の主であったが、今年度も、継続して震災対応に取り組みつつ、継続テーマである「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究」に取り組み、実教育への適用を考慮した教育ツールの検討を行った。

第1回部会を5月29日に開催し、支部発刊の震災報告書並びに学会本部材料施工本委員会で取り組んでいる震災における学会2次提言内容を受け、被害調査およびその後の復興に関わる状況に関してディスカッションを行った。

7月27日には第2回部会を開催し、昨年度開催できなかった講演会の企画を検討した。その結果、部会研究テーマのサステナビリティ関連の参考図書となる「建材・設備はどこで何から作られているのか」の著者である岩手県立大学内田信平准教授をお招きし、著作の基となった自邸の環境共生の家づくりとそれに活用された建築材料の資源・環境との関係について講演頂くこととした。

この講演会は、「環境共生の家づくりとサステナブル建材」と題して11月7日（水）に仙台市戦災復興記念館にて開催された。内田先生には、「「建材・設備はどこで何から作られているのか」の取材から見えてきたこと」と題する講演を頂き、実際の製造工程における取材から見えてきた生産過程における環境への影響や資源循環の観点からのご意見を頂いた。さらに、東日本大震災における岩手でのがれき処理の状況やがれき木材を活用したボードの製作、さらにはそれを活用した復興住宅作りを紹介頂いた。

1月28日には第3回部会を開催し、講演会を踏まえた研究テーマの取りまとめについて議論した。また、来年度の支部研究助成にあたり、学会本部材料施工本委員会でとりまとめ

た震災 2 次提言内容を受け、津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究について取組むことを合意した。

(7) 施工部会

部会長 笠松 富二夫

東北地方太平洋沖地震の被害を受けた建物の被害状況と復旧方法・工法について昨年度から調査をし、まとめていたが今年度の第 1 回部会までに報告書の形で事例資料として残すことができた。この調査事例の記録は今後の震災対策を考える上で極めて貴重な資料になるものと確信している。部会活動として年度内で 5 回の定例会と 2 回の現場見学会を実施した。その概要を記すと

定例会・第 1 回は地震被害状況とその復旧の現状についての実例資料をまとめ、成果品として部会保管することとした。第 2 回は今後の研究活動テーマを決めるための意見交換を行い、今回の震災復興からの新技術のようなキーワードを検討し進めていくこととした。また第 3 回～5 回では委員 8 社からの 2 3 年度以降の災害復旧事例の紹介報告があり、その工法等について意見交換を行った。

現場見学会 ・①サニーハイツ高砂解体現場・・・杭基礎の破損により大きく傾斜したマンションの解体現場（ワイヤソー工法、カッター工法）の見学（H24. 7. 4）

②仙台市立病院新築現場・・・仙台市太白区長町に移転新築される新病院の建設現場における免震階各種免震装置の設置状況等の見学。（H24. 9. 21）

また昨年度初めて試みた委員各位の施工経験を講義していただく市内大学での出前授業を今年度も 9 月から数回にわたり開催実施した。今回は現場見学の講座も含まれるなど大学院生にとって大きな体験となるなど昨年以上の好評を得たようである。今後も本部会ならではのこの事業を委員の絶大な協力を得て継続し定着させていきたい。

(8) 建築デザイン教育部会

部会長 相羽 康郎

本年度は、2 月 9 日に部会を開催し、今年度の活動を踏まえて、次年度以降の活動方向を検討した。また今年度までの任期の委員として、部会長と幹事および委員 1 名を交代し、次期の委員候補を検討した。次年度は新たに櫻井委員を部会長に、新部会長が幹事を、推薦することに決定した。

本年度のおもな活動は、建築計画・地方計画・建築デザイン教育の 3 部会で連携、情報交換を進めることに重きを置き、「特色ある支部活動事業」へ申請し採択された。この事業は、3 部会を横断し、あるいは支部内にとどまらないで、震災から復興を広い見地で考えるために、識者を招致して考察を深める機会を持ったことが特徴である。

具体的には、公開研究会（シンポジウム）を計 3 回行い、その前後にはメールベースでの討論を重ねた。具体的な開催概要は以下の通りである。

第 1 回（2012 年 11 月 18 日）「復興のその先にあるハウジング」・・・復興住宅のあり方、これからの暮らしのあり方を展望するための基調講演と事例報告がなされた。シェアある暮らしの創造と題し、多様な出身者が共同的な暮らしを余儀なくされた都市部の仮設住宅地から、新たな居住像とコミュニティ形成の方途を議論した。建築計画・建築デザイン教育に属する新井信幸（東北工大）が主導。

第 2 回（2013 年 1 月 26 日）「地縁・浜縁 集落再興の道しるべ」・・・壊滅的な打撃を受けた三陸沿岸の漁村集落を中心テーマとし、そこに受け継がれてきたコミュニティ、生業のしくみとかたちを再考した。契約講など自然に向き合う人間社会の知恵・技・ルールを環境社会学の宮内北大教授から、日本の水産資源の管理手法と水産経済の再構築について小松政策院大教授から、それぞれ学び、ミクロとマクロの両面から議論を深めた。建築デザイン教育・地方計画に属する大沼正寛（東北工大）、鈴木孝男（宮城大）が主導。

第 3 回（2013 年 3 月 5 日）「計画の震災」・・・今回の震災を、近代型の「計画の震災」と名付け、復興が遅々として進まないと言われる所以を解き明かし、議論を深めた。京大防災研の牧教授を皮切りに、阪神や中越の経験も交えながら、人口問題、被災者心理、仮設住宅、福島の実情等、豊富な事例報告がなされた。加速化した高齢成熟社会においては粗雑で早い復興より、ゆっくり地道な復興しか描けない事実を再認識した。建築計画の坂口大洋（仙台高専）らが主導。

以上のような合同部会活動の成果に対して、建築デザイン教育部会としては、現場にどう教育を絡めるかという問題を残している。どの事例にも、学生の関与が推察されたが、必ずしも教育プログラムが先行したわけではない。震災後 3 年目に入る次年度は、体制も変わり、新たに教育と地域の復興に議論が進むことを期待したい。

(9) 災害調査連絡会

部会長 源栄 正人

2012 年度は、2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の被害に関する継続的な調査を行った。その成果を、日本建築学会東北支部東日本大震災被害調査報告の地震動、建物被害、被災後の対応、それぞれの章に執筆するとともに、東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会の調査報告書にもまとめた。

また、東北地方太平洋沖地震において東北地方で観測された建物・地盤系の観測記録についてデータ集としてまとめた。

支所だより

青森支所

青森支所長 盛 勝昭

2012年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

6月12日に幹事会を開催し、講習会等の年間事業計画や収支予算等を議決・承認しました。その後も幹事会を2回開催し、講習会の実施に向けて細部を決定してまいりました。

6月16日、17日（一社）日本建築学会東北支部主催による「みちのくの風2012 青森」が八戸市の八戸工業大学をメイン会場に開催され、第75回支部研究報告会、本会会長で東京工業大学名誉教授の和田章氏による招待講演、また「前夜の東北から考える震災後のパースペクティブ」をテーマにパネルディスカッションが行われたほか、第32回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会などが行われ、多くの参加者にお集まりいただきました。

7月13日に開催した『全員協議会』では、『マチへ開くこと～近作を通して～』と題し、「新田の家」で第32回東北建築賞作品賞を受賞された福士讓氏による講演会が開かれ、街の地域性を意識し街への開き方を考慮した住宅の考え方などにつきご講演いただき、和やかに終了しました。

2013年2月8日には、八戸工業大学工学部土木工学科 橋本典久教授を講師にお迎えし、『集合住宅における床衝撃音問題と防止方法について』を開催しました。床衝撃音という身近な問題を取り上げ、最新の研究データに基づいた解説と最近の訴訟事例なども紹介され、受講者は熱心に聴講していました。

青森支所では、今後も地域にねざした活動で貢献してまいりたいと思います。



秋田支所

秋田支所長 山口 邦雄

秋田支所が毎年のこととして力を入れている活動に、「秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール」があります。今年で、第41回となるこのコンクールは、9団体の後援を得て支所が主催するものであり、その開催の趣旨を「建築学の分野に研鑽努力を続け、これから建築関係業界へ大きく羽ばたく生徒諸君らの成果に対して、広く発表の機会を作ると共に県民の建築への関心をさらに高めようとするもの」と

しています。

今年は6校から合計15作品の応募があり、2月13日に審査会を開催して各賞を選定しました。最優秀となる秋田県知事賞には、秋田工業高等学校の佐藤奈緒子さんと土屋春陽さんの作品「家路 ～支・住・集・賑・癒 秋田が福島の復興を支える～」が選ばれました。復興支援都市を正面から捉えた力作で、スケールが大きく、綿密に練られた発想や、難しい形状にうまくプランを落とし込んでいる点などが評価されました。なお、16日までの3日間、秋田市民交流プラザの1階きらめき広場にて応募された全作品が展示されました。

この他にも、建築学会東北建築賞受賞作品のパネルと全国大学・高専卒業設計の同時展示、秋田県建築士事務所協会主催による「第26回秋田の住宅コンクール」の後援と審査員の派遣など、他団体との連携にも力を注いでいます。



表彰式



表彰式後の審査員による個別講評

岩手支所

岩手支所長 澤村 正廣

2012年度の岩手支所の活動状況について報告します。

「第32回東北建築賞作品賞受賞作品展示会」を、平成25年1月25日（金）から27日（日）の3日間、いわて県民情報交流センター「アイーナ」において開催しました。

展示会の期間中約250人の来場者がありました。会場となった「アイーナ」は県立図書館や県立大学アイーナキャンパスが併設されており、学生も多いことから、若い世代に建築学会の活動を広く知ってもらう機会を提供すると共に、地域の特性を活かした建築作品に触れる場として、効果的かつ興味深い展示会になったものと考えております。

また、「第36回盛岡市景観シンポジウム」が支所後援事業として11月16日（金）に「プラザおでつて」で開催されました。今年は「地域から育てる景観からのまちづくり」と題して、岩手大学教育学部講師の渡辺敏男氏による基調講演

のほか、「地域から育てる景観からのまちづくり」をテーマに、地元の建築士や地域の歴史研究者などによるパネルディスカッション、併せて盛岡市都市景観賞の表彰式等が行われ、景観の保全や形成に関する幅広い意見が交わされました。

支所では今後とも、建築関係の見識を深めるための行事の開催や後援を通して、地域の建築活動との連携や地域社会との交流を図っていききたいと考えています。



東北建築賞作品展示会（アイーナ）

山形支所

山形支所長 相羽 康郎

県内の工業高校へ出張講座を本年も JIA、建築士会の協力のもとに実施した。県立長井工業高校を対象としたもので以下の内容であった。

日時：7月20日（金） 10：55～12：45

1. モダンデザインの流れ：相羽康郎（東北芸術工科大学）
2. 近代建築の先駆者 - 郷土出身の3人の建築家：二宮正一（二宮設計事務所）

「モダンデザインの流れ」

地の建築として民家や街並みが成立してきたこと、およびこれらの建築は縄文時代以来の伝統的な構法を継続していること、これらに対して近代建築は図の建築として近代建築材料を踏まえた1個の四角い箱状の形態を造り出したことを説明した。また近代建築の潮流を、産業革命以後の機能性追求による様式建築からの脱却、装飾の破棄、表現主義より機能主義への流れ、RCの箱から鉄とガラスの箱へ、さらにはコンピュータを駆使した自由な形態までの作品を紹介した。

「近代建築の先駆者 - 郷土出身の3人の建築家」

山形県が輩出した伊東忠太、佐野利器、中條精一郎という3人の名建築家について解説があった。また県内に名建築があること、長井市でも二宮氏が関わった、やませ蔵美術館、文教の杜、桑島眼科医院などの保存再生が行われ、市民にも催事などで積極的に活用されていることが紹介された。また長井市は県内でまだ少数の景観行政団体になって積極的に景観行政を推進し、保存家屋の点をさらに線および面の景観に展開しようとしていることを紹介した。

年度末3月19日に幹事会を開催し、今年度の活動を振り返

り、次年度の活動計画を話し合った。今年度実施できなかった「親子の建築講座」の実施にあたっては、最近竣工した小中学校を候補として、年間行事予定が年度初めに決まるので次年度早々に連絡調整をして、実施できるよう分担を決めた。

福島支所

福島支所長 古河 司

2012年度の福島支所の活動状況について報告いたします。今年度は、『東日本大震災復旧支援部会・連続シンポジウム「福島県における復旧復興まちづくりを考える」』及び『第32回東北建築賞受賞作品展示会』を中心に活動しました。

『シンポジウム「福島県における復旧復興まちづくりを考える」』は、平成25年1月26日に福島市にて和田章会長、布野修司副会長ほか全国各地から多くの参加者を得て開催されました。シンポジウムでは、鈴木浩福島大学名誉教授ほか6名のパネリストから福島の現状と復興に向けた課題及び取り組み等について報告があった後、北原啓司弘前大学教授の司会によるパネルディスカッションが行われ、復興に向けて乗り越えなければならない問題について議論されました。参加者は地震・津波被害と原子力災害による福島を取り巻く事態の深刻さや極めて厳しい展望を改めて実感することとなりました。



シンポジウムの様子（左：基調講演、右：パネルディスカッション）

『第32回東北建築賞受賞作品展示会』は、2月に郡山市にて「JIA福島2012作品展」及び「日本大学工学部卒業設計作品展」と合同で開催しました。学生の意欲的な作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで数多くの建築作品が並び、見応えのある作品展となったのではないかと感じています。

これらの事業以外にも、建築雑誌2013年1月号で「福島と建築学」の特集が組まれたり、建築学会大会（東海）において、東日本大震災の住宅対策と住宅復興に向けた課題に関する研究協議会が催されるなど、当支所会員による様々な活動が行われました。

大震災から2年を経た今日も、原子力災害による放射能汚染等から、他県のように復興に向けた足音が聞こえてくる状況には至っておりませんが、今後も学術的な研究等を福島の再生・復興に向けて広く還元するために、地域の学校や関係団体との連携・協働を行いながら、地域に根ざした支所活動を実践し、さらなる事業の充実に心がけてまいりたいと思います。

常議員会から

常議員 (総務企画) 薛 松濤

常議員会は、支部長と14名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、常議員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。常議員会は、年2回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。常議員は、「総務・企画」、「社会・文化」、「会計・会員」、「学術・教育」および「図書・情報」の分担があり、常議員会の開催されない月には、支部長と総務・企画担当常議員からなる総務会が開催されている。今年度は昨年度に引き続き震災対応などもあったが、常議員会が5月・7月・11月・2月・3月に、総務会が4月・6月・9月・12月に開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。これらの議事録は、東北支部のウェブサイトにおいて一般公開されている。議事の多寡によるが、常議員会はメールによるネットワーク会議とする場合もあり、また、常議員会・総務会ともに以前より

NTT回線を利用したウェブ会議システムを導入しているが、参加者の利便性も考慮し、今年から新たに Skype を用いて会議を開催し、出席者の増加と旅費節減に効果を上げている。

また、恒例となっている支部研究報告会を核とした「みちのくの風」の運営でも中心的な役割と果している。2012年度は「みちのくの風2012青森」と題して、6月16日(土)・17日(日)を会期に、八戸工業大学を会場に開催された。2012年度は構造系の講演及び支部訪問として、本学会長の和田章氏(東京工業大学名誉教授)より「大きな自然と厳しい自然災害、そして我々にできる4つの対策」と題して基調講演が行われた。この他、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して、支所長会議を実施し、みちのくの風、東北支部における個人会員・法人賛助会員の動向、新法人制度への対応などについて報告と意見交換を行った。

2012年度の総務会・常議員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

【4月総務会】

理事会・支部長会議報告、会計報告、支部年報編集状況の報告、東北建築賞受賞作品展示会宮城会場について、日本建築学会大賞の推薦について、支部総会について、2012年度「建築文化事業」開催協力について、みちのくの風2012青森について

【5月常議員会】

新旧役員の引継ぎ、年間行事予定、支部総会について、みちのくの風2012青森について、東北建築賞候補募集について、2012年度支部共通事業設計競技について、支部共通事業全国大学・高専卒業設計展示会について、2012年度日本建築学会東北支部災害委員会の活動と予算について、2012年度支部長代行者について、支部規程の改正について

【7月常議員会】

理事会・支部長会議報告、みちのくの風2012青森の報告、会計報告、作品選集2013支部審査会の審査経過について、日本建築学会

設計競技支部審査について、宮城県建築士会への理事推薦報告、学術推進委員会への支部代表委員選出報告、次回みちのくの風について、支部の中長期的検討事項について、日本建築学会教育賞の推薦について

【9月常議員会】

理事会・支部長会議報告、「作品選集2013」審査報告、設計競技支部審査の結果について、東北建築賞の応募報告、東北建築作品発表会について、会計報告、みちのくの風2013岩手について、「特色ある支部活動」について、日本建築学会大賞業績候補の推薦について、日本建築学会文化賞候補について、東北太平洋沖地震記録集の配布について、支部の中長期的検討事項について

【11月常議員会】

理事会・支部長会議報告、東北建築作品発表会の報告、東北建築賞研究奨励賞・業績賞選考報告、会計報告、設計競技全国審査の結果報告、能代市議会議事堂保存要望書提出報告、JASS 24 断熱工事講習会仙台会場開催のご案内、支部総会について、みちのくの風2013岩手について、代議員および次期支部役員ならびに選挙管理委員会の設置について、2013年度予算について、作品選集委員会東北支部選考部会内規と次期審査員の選出について、設計競技支部審査員と全国審査委員の選出について、日本建築学会大賞業績候補・文化賞の推薦について、支所規約の改正について

【12月総務会】

会計報告、代議員・支部役員候補者届出について、設計競技支部審査員について、「作品選集2013」支部審査員について、復興特別所得税の徴収について、みちのくの風2013岩手について、東北建築賞受賞者への賞杯について、2013年度支部総会の付随行事について、支部研究補助費の申請について、支部年報第33号の発刊について、支部のパートタイマー就業規則(案)について

【2月常議員会】

理事会・支部長会議報告、会計報告、能代市議会議事堂保存要望書提出報告、研究補助費について、東北建築賞作品賞の選考報告、年報の報告、みちのくの風2013岩手について、支部総会について、日本建築学会災害委員会への委員推薦について、支所規約の改正について

【3月常議員会】

理事会・支部長会議報告、会計報告、2013年度全国大学・高専卒業設計展示会日程について、日本建築学会災害委員会への委員推薦について、東北支部研究報告会論文提出状況について、支部年報の報告、東北建築賞作品賞選考委員(デザイン教育部会)の交代について、2013年度講習会事業計画(案)について、東北建築賞作品賞の選考報告、作品選考委員会への委員推薦について、みちのくの風2013岩手について、『東北建築賞』候補募集・『東北建築作品発表会』作品募集要綱について、2012年度支部研究補助費申請書について、山形支所規約の改正について

支部役員名簿

東北支部常議員の構成と役割分担

役 割	2012年度 (2012年6月～2013年5月)	2013年度 (2013年6月～2014年5月)
支部長	若井正一 (日大)	若井正一 (日大)
総務企画	西脇智哉 (東北大) 安部信行 (八戸工大) 薛 松濤 (東北工大) 速水 清孝 (日大)	薛 松濤 (東北工大) 速水 清孝 (日大) 後藤伴延 (東北大) 小地沢将之 (仙台高専)
社会文化	三辻和弥 (山形大) 渡辺敏男 (盛岡設計同人) 姥浦道生 (東北大)	渡辺敏男 (盛岡設計同人) 姥浦道生 (東北大) 佐藤慎也 (山形大)
学術教育	新井信幸 (東北工大) ブントラ S. ガン (日大) 八十川 淳 (東北文化学園大)	八十川 淳 (東北文化学園大) 許 雷 (東北工大) 日比野 巧 (日大)
会計会員	鈴木 博之 (仙台市) 佐々木健二 (JR東日本)	笹渕優樹 (仙台市) 佐藤大作 (JR東日本)
図書情報	クアドラ カロス (秋田県立大) 李 晚在 (仙台高専)	クアドラ カロス (秋田県立大) 陳 沛山 (八戸工大)
事務局	伊藤章子 瀧 美雪	伊藤章子 瀧 美雪

研究部会長

研究部会	部 会 長
構造部会	薛 松濤 (東北工業大学教授)
材料部会	西脇智哉 (東北大学准教授)
建築計画部会	坂口大洋 (仙台高等専門学校准教授)
地方計画部会	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠部会	相模誓雄 (宮城大学助教)
施工部会	笠松富二夫 (仙台高等専門学校教授)
環境工学部会	菅原正則 (宮城教育大学准教授)
建築デザイン教育部会	櫻井一弥 (東北学院大学准教授)
災害調査連絡会	源栄正人 (東北大学教授)

東北支部会員数 (2013年4月1日現在)

名誉会員	2名
終身会員	49名
正会員 (個人)	1,163名
正会員 (法人)	37法人
準会員	23名
賛助会員	7法人

東北支部監事

2012年6月～2013年5月

渡邊裕生 (仙台市)

堀 則男 (東北工業大学)

2013年6月～2014年5月

堀 則男 (東北工業大学)

佐々木健二 (JR東日本)

東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2012年4月 ～ 2014年3月	笹澤正善 (JR東日本(株)仙台支社設備部担当課長) 千葉正裕 (日本大学教授) 前田匡樹 (東北大学教授)
2013年4月 ～ 2015年3月	石田 壽一 (東北大学教授) 三浦 金作 (日本大学教授) 横山直樹 (仙台市監査局事務局工事監査課課長)

支所長

支 所	支 所 長
青森支所	盛 勝昭 (株盛興業社 代表取締役)
秋田支所	山口邦雄 (秋田県立大学建築環境システム学科教授)
岩手支所	澤村正廣 (岩手県土木整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
福島支所	古河 司 (福島県土木部建築総室建築住宅課課長)

2012 年度事業報告

〈事務の部〉

総 会	1. 2011 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2012 年度事業計画・予算案	2012 年 5 月 12 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (8)、総務会 (2)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2) その他部会など開催	() は回数
代議員半数改選	(留任) 相沢清志、五十嵐太郎、月永洋一、沼野夏生 (新任) 笹澤正善、千葉正裕、前田匡樹	2011 年 4 月～2013 年 3 月 2012 年 4 月～2014 年 3 月
支部長改選	(退任) 田中礼治 (新任) 若井正一	2010 年 6 月～2012 年 5 月 2012 年 6 月～2014 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 板垣直行、浦部智義、飛ヶ谷潤一郎、堀 則男、松本純一郎 山本和恵 (留任) 安部信行、新井信幸、佐々木健二、鈴木博之、西脇智哉 三辻和弥、BuntaraS. Gan (新任) 李 晚在、姥浦道生、クアドラ・カルロス、薛 松濤 速水清孝、八十川淳、渡辺敏男	2010 年 6 月～2012 年 5 月 2011 年 6 月～2013 年 5 月 2012 年 6 月～2014 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	渡邊裕生、堀 則男	2012 年 6 月～2013 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 薛 松濤 構造技術における新しい試み 材 料 : 板垣直行 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究 建築計画 : 坂口大洋 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 東北のまちとまちづくり/防災まちづくり/環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 永井康雄 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 菅原正則 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 笠松富二夫 建築現場における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 相羽康郎 場所性から建築設計教育を組み直すー東北学生作品と課題の分析と提案 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	・東北地方の建築アーカイブスに関する研究 歴史意匠部会 (研究代表者 永井康雄) ・東日本大震災における東北地方の公共施設の復旧状況と再整備に関する研究 建築計画部会部会 (研究代表者 坂口大洋)	2012 年 4 月～2013 年 3 月
支部研究報告会	2012 年度東北支部研究報告会 研究報告集第 75 号計画系・構造系刊行 発表題目 109 題	2012 年 6 月 16 日～17 日 八戸工業大学

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業</p> <p>2) 第23回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第32回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2012 青森</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演会 ・会長支部訪問ならびに記念講演会 ・第32回東北建築賞表彰式 ・第32回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 青森等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座 開催なし</p> <p>2) 第32回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p>	<p>2012年10月6日</p> <p>2012年10月6日</p> <p>2012年10月～2013年1月</p> <p>2012年6月16日～17日</p> <p>八戸工業大学</p> <p>八戸グランドホテル</p> <p>八戸工業大学</p> <p>2012年6月～2013年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第32回東北建築賞作品賞部門 作品賞7点、特別賞2点 研究奨励賞部門 1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰4名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員4名、</p>	<p>2012年6月16日</p> <p>八戸グランドホテル</p> <p>2012年5月12日</p> <p>せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第32回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・講習会「集合住宅における床衝撃音問題と防止方法」：青森市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第32回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第32回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第32回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第32回東北建築賞作品展示会：山形市 ・山形支所出張授業：「モダンデザインの流れ」 「近代建築の先駆者-郷土出身3人の建築家」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第32回東北建築賞作品展示会：郡山市 	<p>2012年7月</p> <p>2012年6月16日～17日</p> <p>2013年2月8日</p> <p>2012年7月24日～26日</p> <p>2013年2月13日</p> <p>2013年1月25日～27日</p> <p>2013年2月26日～ 3月1日</p> <p>2012年7月20日</p> <p>2013年2月20日～22日</p>
刊行活動	<p>支部年報第32号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第75号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第23号)発行</p>	<p>2012年5月12日</p> <p>2012年6月16日</p> <p>2012年10月6日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	<p>本部材料施工委員会主催</p> <p>建築工事標準仕様書・同解説 JASS24 断熱工事改定講習会</p>	<p>2012年2月22日</p> <p>東京エレクトロンホール宮城</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会</p> <p>山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2012年7月～2012年11月</p>
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：あたりまえのまち/かけがえのないもの ・日本建築学会「作品選集2013」東北支部審査会 	<p>2012年7月19日</p> <p>支部事務所会議室</p> <p>2012年6月～9月</p> <p>支部事務所会議室</p>

2013 年度事業計画（案）

〈事務の部〉

総 会	1. 2012 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2013 年度事業計画・予算案・支部規程の改定	2013 年 5 月 11 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (8)、総務会 (3)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集支部選考部会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 笹澤正善、千葉正裕、前田匡樹 (新任) 石田壽一、三浦金作、横山直樹	2012 年 4 月～2014 年 3 月 2013 年 4 月～2015 年 3 月
支部長改選	(留任) 若井正一	2012 年 6 月～2014 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 安部信行、新井信幸、佐々木健二、鈴木博之、西脇智哉 三辻和弥、BuntaraS. Gan (留任) 姥浦道生、クアドラ・カルロス、薛 松濤、速水清孝、八十川淳、渡辺敏男 (新任) 小地沢将之、後藤伴延、許 雷、笹渕優樹、佐藤真也 佐藤大作、日比野 巧 陳 沛山	2011 年 6 月～2013 年 5 月 2012 年 6 月～2014 年 5 月 2013 年 6 月～2015 年 5 月 2013 年 6 月～2014 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	堀 則男、佐々木健二	2013 年 6 月～2014 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 木村祥裕 構造技術における新しい試み 材 料 : 西脇智哉 津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究 建築計画 : 坂口大洋 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 東北のまちとまちづくり/防災まちづくり/環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 相模誓雄 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学 : 菅原正則 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 笠松富二夫 建築現場における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 建築設計教育のいま : 学生設計課題・学生賞、支部研 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究 材料部会 (研究代表者 西脇智哉)	2013 年 4 月～2014 年 3 月
支部研究報告会	2013 年度東北支部研究報告会 研究報告集第 76 号計画系・構造系刊行 発表題目 83 題	2013 年 6 月 22 日～23 日 岩手県公会堂

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業</p> <p>2) 第24回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第33回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2013 岩手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演 ・第33回東北建築賞表彰式 ・第33回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 岩手等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業</p> <p>2) 第33回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p>	<p>2013年10月</p> <p>2013年10月</p> <p>2013年10月～2014年1月</p> <p>2013年6月22日～23日 岩手県公会堂</p> <p>2013年10月</p> <p>2013年6月～2014年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第33回東北建築賞作品賞部門 作品賞6点 研究奨励賞 1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技全支部入選者表彰代表者4名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員7名</p>	<p>2013年6月22日 岩手県公会堂</p> <p>2013年5月11日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第33回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・講習会 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第33回東北建築賞作品展示会：由利本荘市 ・第42回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第32回東北建築賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第33回東北建築賞作品展示会：山形市 ・「親と子の都市と建築講座」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第33回東北建築賞作品展示会：郡山市 	<p>2013年7月</p> <p>2013年10月</p> <p>2014年2月</p> <p>2013年7月</p> <p>2014年2月</p> <p>2013年11月</p> <p>2013年6月</p> <p>2013年11月</p> <p>2014年2月</p>
刊行活動	<p>支部年報第33号発刊</p> <p>日本建築学会東北支部2011年東日本大震災災害調査報告</p> <p>東北支部研究報告集第76号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第24号)発行</p>	<p>2013年5月11日</p> <p>2013年5月11日</p> <p>2013年6月22日</p> <p>2013年10月</p>

〈支部共通事業〉

講習会	講習会「合成構造設計規準」「SRC構造計算規準」	2013年10月
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2013年6月～2013年11月
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年度支部共通 日本建築学会設計競技 課題「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する」 ・日本建築学会「作品選集2014」東北支部審査会 	<p>2013年7月 支部事務所会議室</p> <p>2013年6月～9月 支部事務所会議室</p>

法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)伊藤喜三郎建築研究所
(株)大林組	東日本興業(株)
(株)関・空間設計	(株)昴設計
鹿島建設(株)	千田総兵衛建築事務所
(株)久米設計	(株)本間利雄設計事務所+ 地域環境計画研究室
(株)熊谷組	
清水建設(株)	東日本旅客鉄道(株)
仙建工業(株)	東北電力(株)
大成建設(株)	一般社団法人 東北空気調和衛生工事業協会
(株)竹中工務店	
鉄建建設(株)	高吉建設(株)
戸田建設(株)	クレハ錦建設(株)
(株)ユアテック	日本原燃(株)
西松建設(株)	(株)楠山設計
(株)間組	(株)ティ・アール建築アトリエ
堀江工業(株)	(株)I N A新建築研究所
前田建設工業(株)	(株)東北開発コンサルタント
(株)ピーエス三菱東北支店	山形県立図書館
(株)三菱地所設計	日本大学図書館
(株)山下設計	東北芸術工科大学
(株)梓設計	日刊建設産業新聞社

一般社団法人 日本建築学会東北支部

支部年報第 33 号
2013 年 5 月 11 日発行

編集責任者（図書情報担当常議員） クアドラ カルロス
